

▲ ▲ ▲ 伊豆ヶ岳 ▲ ▲ ▲

西山 哲明

◎山行日 2021年4月5日

◎メンバー 単独

[タイム] 正丸駅 8:00-西吾野駅 13:00

今週は、マルチに行くんだよなあ、でも軽くていいから日帰りで行きたい。

そんなことを考えながら、奥多摩の地図を眺めていたら埼玉県から山に入ったことがないのを思いつき、秩父鉄道でどこかアクセスの良い場所はないかないかと見ていると、“伊豆ヶ岳”を見つけた。ルート短そうだし、そのまま足を伸ばして二駅先までいけそうなので登山計画書を提出した。

平日で、前夜からの雨のせいもあり正丸駅は降りる人は自分以外いなかった。登山計画書をポストに投函して出発、道標にしたがって当分は舗装道を歩く。民家には水仙や桜の花が咲いており見事だった。

しばらくして、大きな岩と祠がありここから登山道となった。天気は曇っていたが気圧計に大きな変化は無く今日一日は持ちそうな気がした。川沿をしばらく進んでいくと少し急な斜面を登る。なるべくゆっくりと登るようにして目の前に”この先危険”の標識が、見上げると長そうな鎖場についた。事前に情報を入れてなかったの鎖場があるとは思わなかったのうれしい。さっそく嬉々として取り付くことに。チェーンは3本かかっている。適当にオブザベをしてホールドの少なそうなルートに取り付いた。全体的に逆層でホールドが無いように見えるが、よく観察すれば、小さなホールドが多数あり登っていて楽しい。鎖場を終えると巻くようだが、しっかりと直登すると眺め良い岩場に出くわした。そこからすぐに伊豆ヶ岳に出られる。

伊豆ヶ岳を過ぎるとあとは、緩い登り下りが続く稜線となる。電線の通っていない鉄塔を過ぎると緩やかに降り始めてきた。天目指峠に着くと雲行きが怪しい、気圧も下がってきている。この先で食事をすると雨ざらしになりそうなので、峠にある東屋で昼を摂ることにした。テキトーに家から持ってきたハムやらチーズをパンに挟んで、フライパンで焼いておると雨が降ってきた。ここから無理に登るのもどうかと思う。

おいしい食事を終えてみると小雨にはなったが下山することにした。長い舗装道を歩くのは辟易としそうだったが、途中の民家に咲いている花が素晴らしく、こっちの道も良いものだなあと少し得した気分になった。

里に降りたときには雨も止んでいた。途中の小川にはシラサギがおり、じっと川を覗いている。自分もお魚がいらないかなあなどと一緒に川を眺めてしまった。



(了)